

わかるということ

夏休みが終わりました。子供たちは、夏休みを有意義に過ごすことができたでしょうか。いつもとは違う時間の過ごし方の中で心も体も成長した子供たちと、充実した2学期を送れるよう願っています。教職員も夏休み中に多くの研修の機会があり、これまでの子供たちとの取組を振り返るとともに、教職員自身の学びを深めることができました。わたしもいくつかの研修に参加し、その中で、「わかる」ということについて改めて考えることができました。

学びの場では、「わかる→できる」というプロセスが通常であると思われます。「わかるからできる」ようになるのです。勿論、「わかるけれどできない」ということもあります。けれども、残念ながら、「わからないけれどできる」ということも、現実には起こってしまいます。

例えば、6年生の算数には、分数÷分数の学習があります。ここでは、次のような場面での計算の方法を考えます。子供たちは、まず立式を考え、次に計算の方法を見つけていきます。

$\frac{3}{5}$ m²のかべぬるのにペンキを $\frac{1}{3}$ d L使いました。

1 d Lでは何m²ぬれるでしょう。

$$\frac{3}{5} \div \frac{1}{3} = \frac{3}{5} \times \boxed{}$$

$$= \boxed{}$$

立式の場面では、「ペンキを2dL使うのなら、 $\frac{3}{5} \div 2$ だ」という考えを使って $\frac{3}{5} \div \frac{1}{3}$ という式に納得するはずですが、この計算は $\div \frac{1}{3}$ を $\times 3$ にすれば解決する

ことを学習の場面で見つけていくのです

が、「なぜそうすればよいのか」を考えることを抜きに、「ひっくりかえして（逆数を）かければよい」という理解で終わってしまうことがあります。そうすると、なぜそうなるのかは「わからない」けれど計算は「できる」ことになってしまうのです。これでは、本当に理解したことにはなりません。計算の答えが合っていれば、「わかっている」と思ってしまいがちですが、必ずしも真の理解ではないことがあるのです。私たちは、子供たちが「わかる」ということはどのようなことなのかを真剣に考えて取り組む必要があります。6年生の算数だけでなく、1年生から6年生の学習のさまざまな場面で、このような学びが必要とされています。学校では、一見回り道のようにも、ひとつの正しい答をだすことが最終の目的ではなく、自分なりに絵や図に書いて考えたり、考えたことを友達と話し合ってみたり、わかったことを文章に書いてみたりすることで真に理解が深まり、次の学習意欲につながることを大事に、子供たちと学習を進めたいと思います。

学校長 酒井 千佳

広瀬だより

8・9月号



日	曜	主な学校行事
< 8 月 >		
26	月	始業式(下校 11:30) セーフティネット
27	火	大掃除 夏休み作品展(14:00~17:00)
28	水	夏休み作品展(9:00~17:00) フッ化物洗口
< 9 月 >		
2	月	セーフティネット
4	水	フッ化物洗口 運動会練習開始
6	金	委員会
9	月	身体測定 2年
10	火	身体測定 1年 スクールカウンセラー来校
11	水	フッ化物洗口 身体測定 5年 ALT来校
12	木	身体測定 6年
13	金	身体測定 3・4年
17	火	競書会清書 (~27日) スクールカウンセラー来校
18	水	フッ化物洗口
21	土	子どもセンター輪投げ教室
25	水	委員会(運動会準備)
26	木	フッ化物洗口
27	金	運動会準備(1~4年は 14:30頃下校)
28	土	運動会
30	月	振替休業日

2学期の主な予定

- 10/10 (木) 5・6年生体験活動(加太)
- 10/16 (水) 4・5年生県学習到達度調査
- 10/18 (金) 就学時健康診断
- 10/19 (土) 市陸上競技大会
- 10/25 (金) 1~4年生秋の遠足
- 10/29 (火) 参観・教育講演会・引き渡し訓練
- 11/10 (日) ~12 (火) 5年生宿泊体験学習(民泊)
- 11/13 (水) 5年生振替休業日
- 11/14 (木) 5年生緑育体験学習
- 11/25 (月) ~26 (火) 6年生修学旅行
- 11/29 (金) 参観・学級懇談
- 12/ 1 (日) 市PTA合唱祭
- 12/ 2 (月) 4年生6校交流音楽会
- 12/10 (火) 文化芸術巡回公演(バレエ)
- 12/13 (金) 学校保健安全委員会
- 12/14 (土) ~15 (日) 市家庭科作品展
- 12/24 (木) 終業式



